

米中軍機問題 識者2人に聞く

米中両軍機接触事故の米軍機乗員の解放問題が11日、急展開した。今後の米中関係への影響や、機体返還問題などについて識者に聞いた。

敵対は双方望まず

宇佐美滋・日本大国際関係学部教授



この事故には、偵察活動をしてきたアメリカはもちろんで、中国側にも威嚇行動を行い、「米側が完全に悪

い」と言い切れない部分がある。両国の交渉は、互いに自国に有利な結末を引き出すための綱引きをしていく心理的色彩が濃い。米国には、偵察機の情報活動の内容を中国側に知られたくない上、乗員拘束の長期化が対中国の国内世論を急がせたのだから。

を悪化させ、発足間もないブッシュ政権の足を揺るがす恐れがあった。

また、朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)の領海近くを航行していたスパイ船が同国に拿捕された「米アエロ号事件」(1968年)の苦い経験がある。同事件で乗員の拘束は1年近くに及び、最終的に「スパイ行為」を認め、解放された。冷戦が終わった今、こんなことはないだろうが、この時の教訓が早期解決を

中国は「謝罪」の言葉にこだわったが、パウエル國務長官の「おわび」で国内世論を収められると判断したのだから。

的には不即不離の関係を続けていくと思われる。経済的利益などから敵対行為よりも「友好」関係を維持するのが利口だと双方とも熟知している。

偵察機の返還に関しては、損傷した機体をどうするかなど技術的な問題もあるし、返還後中国側の機内調査の程度が明らかになってくれば、さらに新たな問題が生じる可能性も否定できない。

米国は武器売却を認める方針だが、中国としては反対だ。

新たな問題発生も

中嶋嶺雄・東京外国語大学長



印象としては大変よかった。乗員の拘束期間は2週間近くになっており、人道

上からも早く帰国させるべきで、今回の措置は当然のことだと思う。現在の米中関係は「新冷戦」状況であり、これ以上、こじれると深刻なことになるかたねない。双方にある程度の理性が働きつつあるようだ。た

だ偵察機がいつ返還されるかなどまだ問題は多い。第一ラウンドが終わったという程度だろう。

中国側も、江沢民国家主席が1月の年頭演説で米国を「単独覇権」と見なし、徹底的に対抗する姿勢を示している。ただ、中国側には弱みもある。世界貿易機関(WTO)加盟や、米国による最恵国待遇の延長問題だ。国内体制が不十分なまま世界市場に組み入れられることへの不安から保護主義的な動きも表れている。いずれにせよ第2ラウンドの展開がどうなるかはまだ分からない。

《米中軍機の接触事故をめぐる主な経過》

- 1日午前 24人が乗った米海軍のEP3偵察機が南シナ海上空で中国軍機と接触、機体の一部が損傷し、中国南部の海南島に緊急着陸。中国機は墜落、飛行士1人が行方不明に
- 夜 中国外務省が「事故の責任は米側にある。米軍機は許可なく、領空に入り着陸した」との談話を発表
- 2日午前 プレア米太平洋軍司令官が中国軍機がここ数カ月「より攻撃的」な方法で米軍機の進路を阻むようになっていたと中国側の対応を批判
- 夜 ブッシュ米大統領が声明を発表し、乗員と在中國米大使館員の面会許可を求めて「要望に対し中国側から適切な反応がないことに戸惑っている」と不快感を示す
- 3日午後 中国の江沢民主席が「米国は中国の沿海空域でこの種の飛行を中止すべきだ」と米側の主張に全面的に反論、偵察飛行中止を求める談話を発表
- 夜 乗員24人が在中國米大使館のシロロック准将と事件後初めて面会
- 4日午前 ブッシュ大統領が再度声明を発表。乗員と機体の速やかな返還を求め、中国政府が応じなければ米中関係の悪化を招くと警告
- 5日午前 パウエル米國務長官が中国機の墜落で「パイロットの人命が失われた」として遺憾の意を表明
- 午後 中国外務省がパウエル長官の遺憾表明を評価
- 6日夜 米政府特使が乗員と2回目の面会。墜落した戦闘機の僚機パイロットが「突然、米軍機がぶつかってきた」と中国のテレビインタビューで証言
- 7日 米中が、事態収拾のための文書作成と事故調査の合同組織設置で合意
- 8日 パウエル長官が米テレビとのインタビューで「申し訳ない(ソーリー)」と述べた
- 10日午前 中南米歴訪中の江沢民主席に随行した朱邦造報道局長、米国の謝罪を改めて要求
- 夜 中国国営通信、新華社がパウエル長官の「ソーリー」発言を「おわびの意を表した」と伝えた
- 11日夜 中国のテレビが「米乗員がまもなく出国できる」との当局声明を報道

(注) 日時は中国時間

【聞き手・和田 浩明】